

# 京の銘菓・老舗 14

奈良時代に遣唐使が伝えた唐菓子の一つである  
せいじょうかんきだん「清淨歡喜団」を今日も受け継ぐ400年の老舗  
亀屋清永の第17代当主・前川清昭さんに京御菓子司の暖簾を守り、新たに挑む「温故知新」の深き想いをお聞きしました。



京都の盛夏を彩る祇園祭でも名高い八坂神社。その壮麗な朱塗りの西楼門の石段下南に、元和3(1617)年の創業から約400年の歴史を暖簾に刻んできた京御菓子司の亀屋清永があります。江戸幕府は有職故実に則り、京菓子の伝統を守るために、安政4(1857)年に上菓子司を248軒に限定。その中でも「禁裏御用達」を許されて「京御菓子司」と名乗ることができたのは、亀屋清永をはじめとする僅か28軒のみでした。禁裏御所御膳所、諸藩諸侯、社寺仏閣に出入りを差許され、代々積み重ねた多大の功績によって「和泉大掾」の称号を賜わり、苗字帯刀を許されました。天保13(1842)年の「御所巻物」(京都御所に提出した菓子のメニュー表)でも、当時「京御菓子司」として亀屋清永が納めていた菓子の名前を見る事ができ、貞享2(1685)年に刊行された京都の名所案内である古書『京はぶえ羽二重』にも、菓子所の筆頭に亀屋清永の名が記されています。

奈良時代に遣唐使によって伝えられた唐の菓子は「唐果物」と称され、京菓子の起源とされています。団子や餅を塩味で整え、油で揚げたもので、神饌や供饌として用いられ、貴族の饗宴で食されました。その一つが亀屋清永の代表的銘菓「清淨歡喜団」であり、千年余の古の姿を今日に伝えるこの菓子を作り続けているのは、その秘法を比叡山の阿闍梨より習った亀屋清永のみです。調製には必ず精進潔斎して臨みます。

このような通年の名品と共に、季節の逸品も実に多彩です。たとえば、祇園祭の時期に限定販売していた「祇園さん」。表面に八坂の御神紋と鉢の焼き印が施された京情緒あふれる銘菓として広く親しまれてきました（現在、販売休止）。これに替わって、

女性客の間でも「涼やかで、可愛い！」と話題になっているのが夏限定和菓子「星づ夜」。澄んだ青色に月と星がきらめく仕上げで、ほのかに香るフルーツとレモンの爽やかな味わいは、祇園祭のお土産にも最適です。昨年、創業400年を記念して発売した「翔—SHOU」も大人気。あんず、いちじくのドライフルーツを入れたひと口サイズの羊羹で、ワインなどのお酒のおつまみにもぴったりです。第17代当主・前川清昭さんの座右



の銘は「温故知新」。伝統を守りながら、常に新たな和菓子づくりに思いを馳せています。「閃きを得た時が最高に幸せ…」と快活に微笑みます。

京御菴子司『魯屋清永』

本店：京都市東山区祇園町南側53

TEL 075-561-218

營業時間 8:30~17:00

定休日 水曜日 不定期休

